

## 館報

No. 34

1986. 6.

嵇康の鍛冶趣味  
ヒューストン  
全国共同利用図書一覧  
図書館統計  
併任を終えて  
夏季休業期間中の  
利用について

## 嵇康の鍛冶趣味

成瀬哲生

三国魏の末期に活躍した隠者志向の知識人グループを「竹林の七賢」といいます。果して七人が実際にグループを形成していたかどうかは疑わしいのですが、代表格とされる阮籍(210—263)と嵇康(223—262)が最もこの時代をシンボライズする存在であったことは、異論の余地はないものと思われます。

権力の交代期に道徳律が形骸化し人格支配の手段に利用される現象がしばしば生じます。この時代の儒教は、まさにそのような状態にありました。阮籍や嵇康が現実を相対化する老荘思想に深く傾いたのも、それは思想の選択であったよりも良心の選択であったところに大きな特色があります。しかし、権力の落ち着く先が誰の目にも明らかな時、なおかつそれを肯定しえぬ人間の運命は知れておりません。体制内の異分子は、妥協するか抹殺されるかの二者択一の状況に刻々とさらされていきます。これは二人の運命の分岐点でもありました。阮籍は容認され、嵇康は抹殺されたのであります。阮籍の文学が内面の苦澁を難解なシンボリズムで充たすのもゆえなしとしません。自己の矛盾を見つめるしか手は残さ

れていなかったのです。最晩年の阮籍が妥協を拒否できなかったことは事実ですが、彼ほど真摯に自己を見つめた人間は、そう多くはいないのです。阮籍に比べると、嵇康はスキだらけでした。政治の現実を批判する立場が典故の使用などに隠されていますが、さほどの困難なく指摘できます。生活の上でも阮籍のように酒浸りになって自己韜晦する手管には欠けていました。多くの論者が嵇康の個性をその悲劇に直線的に結びつけるのは、結果論が陥りやすい倒錯の論理によるものとは片づけられません。十分理由のあることなのです。

ところで、中国の知識人は、古来官僚であるかその予備軍であります。彼らの経済的基盤は、時代によって形態は変化しますが、土地経営です。この時代は各地の豪族が主流です。阮籍も漢代以来の名門豪族の出身です。嵇康の家柄も家世儒学つまり学者の家柄とされており、名門ではないにしても土地経営を基盤とする豪族層の出身と考えるのが常識であります。ただそのようなまっとうな出自を背景にする時、個人の趣味といってしまうば

それまでかも知れませんが、鍛冶を趣味としていたことは、異和感を与えます。嵇康が鍛冶仕事を好んだことは、いくつかの文献にわたっており、唐代までは遺跡も残っていたようです。場所は、河南省修武県で、嵇康の時代の河内郡山陽県です。嵇康が20年寓居した土地です。嵇康の鍛冶仕事の様子を伝えて最も有名なのは『世説新語』簡傲篇の記事です。

鐘会はするどく頭の回転も早かった。

嵇康とは面識がなかったのですが、当時のひとかどの才人たちと連れ立って嵇康を訪ねた。嵇康は大樹の下で鍛冶をしており、向秀が助手になってふいごを押していた。

嵇康はつちをふりあげて仕事を続け、訪問客など気にもかけず、時間がたっても一言もことばをかわさなかった。鐘会が立ち去ろうとすると、嵇康がいった。何を聞いて来たのか。何を見て帰るのか。

鐘会がいった。「聞いたことを聞いて来たのさ。見たことを見て帰るのさ。」

鐘会は、後に嵇康処刑の筋書きを造る人物です。この時の嵇康の無礼を根にもったからだともいわれております。向秀は、嵇康の友人で「竹林の七賢」の一人。

私の知るかぎり、詩人として名を残す中国の知識人で、鍛冶を趣味としたのは、彼一人であります。鍛冶は、技術的な知識や経験なしに思いつきで手がけられる仕事ではありません。ふいごなどの設備も必要です。彼がどこでどのようにして鍛冶の技術を修得したのか。文献のあるものは器用であったからとのみ説明しておりますが、説明としては中途半端です。必要条件にすぎません。家世儒学の出身と考えるかぎり、鍛冶の技術の修得過程は、文献から明らかにすることは、おそらく不可能です。文献というものは、おしゃべりではありません。こちらに応じて饒舌になったり、寡黙になったりします。仮説は、幾何における補助線のようなものです。仮説によ

ってそれまで無意味であった資料がつながり出します。嵇康の出自に関する資料も、鍛冶の技術を修得する環境下であったのではないかという目で見直していくと、そこに一本の線が浮かんできます。ただ現在のところあまりにも細い線であり、有力な反証があれば、撤回せざるをえないのですが、場合によっては有効な方法論であることに変わりありませんから、試みに述べておきたいと思います。

嵇康は譙国鉅県（安徽省宿県の南）の人です。先祖は会稽郡上虞県（浙江省上虞県）の人で、本の姓は奚でした。人の怨みを避けて鉅に移住し、嵇氏と姓を改めました。会稽の稽の字の上と山とで合成し姓としたのです。本来の出身地を姓に表わしたのであります。一説では鉅に嵇山という山があり、その側に家したので嵇氏を名のつたとも伝えられていますが、漢代の字書である『説文解字』に嵇の字はなく、むしろ嵇山は嵇氏にちなんで名づけられたと考えられます。以上は嵇康の出自に関する重要地名です。問題意識がなければ、地名は単なる地名にすぎません。しかし、嵇康の鍛冶趣味を背景にこれらの地名をながめると、違ってきます。どちらも製鉄に縁がある地名なのです。会稽は戦国期から製鉄業の地であり、魏晉の時代にも製鉄技術の伝播に会稽地方の人々は大きな役割りを果しております。鉅は地名そのものが鉄器の産地であったことを示しております。ちなみに鉅は鎌の一種です。先祖の出身地と移住先が鉄で結ばれる可能性は、同時に嵇氏一族が製鉄技術を保有していた可能性をも示唆します。

処刑の瞬間、嵇康は仙化し、遺体を残したただけだという伝説があります。古代の鍛冶が呪術的作業であったことはよく知られております。晋代の古小説にも鍛冶屋が仙人となる話があります。嵇康の老荘思想は、仙薬を服用するなど神秘主義的实践が含まれており、その点で阮籍とはかなり異質な傾向を示して

いますが、嵇氏一族が古代の製鉄技術の流れを汲んでいたとすれば、その鍛冶趣味はもとより、神秘主義的実践の由来も理解しやすいように思われます。そして反乱をおこしたわけでもない彼が処刑という手段によって抹殺されたのも、異端ゆえの社会的基盤の脆さが狙われたのではないのでしょうか。知識人対策

として全体に脅しをかけて掌握するには、恰好の標的といえるからです。

嵇康の悲劇に多少の材料から推測を加えてみました。学問の王道は、実証主義です。しかし、素朴な疑問を押し殺さないことも、この小文の当否は別にして、必要な心構えであろうかと思われます。（教養部助教授 中国文学）



けんせき せんが 阮籍 (磚画拓図)



けいこう せんが 嵇康 (磚画拓図)

(小学館 中国古典詩聚花4 から転載)

## 本学教官著作寄贈図書

(昭和60年11月～昭和61年4月受入分)

寄贈者	書名	配置箇所
東 國 恵	東南光作品集 私家版	本 館
徳島大学医学部 公衆衛生学教室	三好保教授就任十周年記念・徳島大学医学部公衆衛生学教室研究業績目録 4 徳島大学医学部公衆衛生学教室	蔵本分館
徳島大学歯学部 口腔外科学第一教室	筒井英夫教授退官記念・徳島大学歯学部口腔外科学第一講座開設三十三周年記念業績集 徳島大学歯学部口腔外科学第一教室	"
山 下 剛 利	精神衛生法批判 日本評論社	"
高 杉 益 充	副作用症例報告集 I 医薬ジャーナル社	"
高 杉 益 充	診断・治療の進歩と新しい薬剤 医薬ジャーナル社	"
坂 東 永 一	情報量が多く操作の容易な下顎運動測定器の開発 徳島大学歯学部	"
山 本 尚 三	Advances in Prostaglandin, Thromboxane, and Leukotriene Research. Vol. 15. Raven Press	"
森 博 愛	症例から学ぶ心電図活用法 金原出版	"

## ヒューストン近郊での“できごと”

吉村好之

私は昭和58年10月から米国テキサス州ヒューストンにあるベイラー医科大学での研修を終えて、60年9月末に帰国した。その間の体験記をと、依頼を受けたが、すでにテキサス州に出張、帰国された数人の先生方もおられるし、米国に関しては、諸先生方より種々の形で“良きアメリカ”は紹介されています。図書館の寄稿文としてふさわしくないかも知れないと迷いつつも、私の見聞したヒューストン近郊での一部の事件について書いて見ようと思う。

テキサスと言えば、“カウボーイ”，ヒューストンと言えば、アメリカ航空宇宙局NASAが設立したジョンソン・スペース・センターのある町（1969年に人類初の月面着陸を成功させたアポロ11号で世界的に知られているが、現在はその地位をフロリダ州のケネディ・スペース・センターに譲っている）、として知られているものの、日本からの観光ルートからは完全に除かれている。

ヒューストンは米国中南部に位置するテキサス州最大の都市で、ニューヨーク、シカゴ、ロサンゼルスなどの都市に次いで、米国第5位の人口を有する都市です。石油、天然ガスを産出し、これらを中心とする工業と米国第3の規模を誇る港湾都市として発達してきた都市です。市内にはこれといった観光地はなく、ケネディ大統領の暗殺された町ダラスへは北300マイル、アラモの砦で有名なサンアントニオへは西200マイル、テキシーランド・ジャズの発祥の地ニューオリンズへは東350マイルの位置にあり、多くの日本人は週末を利用して、これらの地を訪れることとなります。気候は、年末から年始にかけての約1ヶ

月間だけが真冬、この前後の2ヶ月が一番過しやすい季節で、残りはすべて夏という感じで、アパートにあるプールでは4月から10月の間、日光浴、水泳を楽しむことが出来ます。雪は2年間の滞在中、粉雪が3回程経験しましたが、夕方に降った雪のため、翌日、路面凍結の恐れがあり、大学を含めた学校関係が休校になり驚きました（幸いにも、ベイラー医科大は平常通りでしたがー）。

さて、話を本筋に戻すことにして、先に書きましたように、石油工業を中心として発展してきた町ヒューストンは景気の良かった5～6年前頃までは他国、他州から種々の人々が流れ込んだと聞いています。当時、研究のために渡米した日本人はアパートを見つけるのに数日間かけた程で、到着後ホテル暮らしを長期間続けたそうです。その後、景気が悪くなると失業者が続出し、町角に一日中座り込んでいる人が多く見られました。テキサス州はメキシコと境界を接していることもあって、メキシコ、その他の中南米出身者が多く、彼らは景気の良い米国での生活を夢見て、ヒューストンへ流れ込んできたようです。景気が悪くなると、日雇いのような身分で働いている彼らが真先に失業するのは明らかです。こうした中で、犯罪が起こるべくして起り、我々日本人を恐がらせたものでした。以下、私の見聞した一部の事件について挙げて見ます。最初に、大学への手続きの際、知り合った日本人から、ヒューストンに来て一ヶ月の間に、二度もアパートの駐車場で強盗に逢い、数十ドル取り上げられた人がいると聞きました。その後、その研究者は帰国してしまったそうです。

日本では年末になると強盗事件が多くなりますが、ヒューストンでもクリスマスが近づく、強盗事件が多くなり、一週間に三度もガソリンスタンドが襲われ、テレビでは隠しカメラでとった犯人の発砲の瞬間、店員の倒れる場面が生々しく放送されました。又、グレイハウンドのバスで旅行中の英国人が、ダウンタウンの停留所で一時間の停車の際、付近を散歩していて15分後に射殺死体で発見されました。もちろん、金品はなくなっていたそうです。

次に、私の身近かで起きた事件ですが、学会からの帰り道、ヒューストンに立ち寄ったT君と話し込んでいた夜、突然、パトカーがサイレンを鳴らしながら、アパートの駐車場へ何台も入ってきました。別棟のアパート数軒の窓ガラスがメキシコ人によって割られたため、住人がライフル銃を持って追いかけて、警察に協力して逮捕したそうです。この時、この棟に住んでいた日本人K君の部屋に、急にライフル銃を持って入ってきて、大きな声で何か言ったのだそうですが、恐怖で何もわからなかったと言っていました。その後、K君と私は、アパートの中のコインランドリーで衣類に数色の色素を入れられたりしたこともあって、フェンスがあってアパート以外の住人が入れない別のアパートへ引っ越ししました。

更に、別のアパートでの日本人の経験した事件ですが、ある日、突然窓ガラスがピシッと鳴ったかと思うと、後方の壁、頭上50センチくらいの所に銃弾が喰い込んでいたそうです。この時は、このアパートの隣の駐車場で派手な銃撃戦があって、その流れ弾がこの人の部屋へ飛び込んだのです。その後、この日本人も別のアパートへ引っ越ししました。最近、同じアパートで再び銃撃戦があったことを、現在も滞在している友人から聞いています。米国の一部の州では、銃砲所持を禁止し

ようとする動きもあるらしいのですが、自分の身は自分で守るという意識は、米国人にとって簡単には捨てられそうにはありません。研究室にいたメンバーに聞いても、ピストル、ライフル銃は所持しているようですし、手離す気もなさそうでした。銃を所持していたことで、あやうく難を避けられた話題を紹介すると、一つはセールス関係の女性が高速道路を運転中、エンストを起こした時、親切そうに寄ってきた三人組にある家に連れ込まれたそうです。この女性はスキを見て隠し持っていたピストルを取り出して発砲しながら、近くの家へ逃げ込んだそうです。もう一件は、ある家に強盗が入り母親が危険な状態にある時、外で遊んでいた5才の男の子が父親のライフル銃を持ち出し、強盗の背中につきつけ“ママをはなせ”と叫んだため、強盗は逃げ出したそうです。この二件は米国人にとって、銃砲所持の必要性を痛感させる出来事であるように思えます。

以上、ヒューストンで見聞きした一部の出来事で米国でなくとも、犯罪に銃を使用する機会が多いことを除けば、日本でも同じ程度かも知れません。しかし、犯人の検挙率は極めて低く、同じ人間が逮捕されないまま、何度も同じ犯罪を繰り返しているようです。

私が出発前、友人、諸先輩からお聞きしていた米国はもっと治安も良く、もっと住みやすい国のような気がしました。しかし、予想とは違ったヒューストンでの生活は、かえって印象深く心に残っています。

以上、ヒューストンの治安の一部分について、走り書きしましたが、夜はアパートから一歩も出なかった私などは、ごく一部のヒューストンしか知らないことは言うまでもありません。しかし、この文を読まれた人は“危険な町ヒューストン”という印象を持たれるかも知れませんが、現在ヒューストンには三千人以上の日本人が住んでいます。これと言

った事件に巻き込まれた様子もありません。  
 どのような町でも、常にこの程度の事件はあるのかも知れませんが、ヒューストンについ

てのこの文章が近い将来、全面的に書き改められることを願ってペンを置きたいと思えます。  
 (薬学部助手 生化学)

## ビ デ オ で 学 習 を

附属図書館本館及び蔵本分館視聴覚室には、下記のようなビデオ装置、テープを備えています。教育、研究、学習又余暇にご利用ください。

本館ではVHS、β両方式のテープが使用でき、特にビデオプロジェクターは50形大画面スクリーンを採用していますので、大迫力と臨場感あふれる画像が楽しめます。

分館ではUマチック方式のテープのみを備

えております。他にセミナー室で毎月2回日本医師会所蔵のフィルムを借用して16ミリフィルム映写会を催しております。

なお、図書展示会、会議、講義等で利用できない場合もありますので、希望者は前もって2階カウンターまで申し出てください。

○利用時間は次のとおりです。

月～金曜日…午前9時から午後5時まで  
 土曜日…午前9時から午後0時30分まで

### ○所蔵ビデオテープ

本 館	蔵 本 分 館
世界名作の旅 20巻	病気シリーズ 17巻
シルクロード 第1～12集	病理解剖シリーズ
ハムレット (NHKシェークスピア) 4巻 劇場、英語版	NHKビデオ録画
第二次世界大戦 (英語版) 12巻	心 臓 病
入門エレクトロニクス講座・基礎篇 5巻	よみがえる視力
コボル基本プログラミング 6巻	人 工 心 臓
楽しく学ぶBASIC 上・下	糖尿病と闘う
ふるさとを訪ねて	ガン——薬でどこまで直る
——阿波の鳴門と徳島、祖谷溪から	ある重症筋無力症患者の記録
剣山へ——	生命誕生の秘密 (体外受精の試み)
外 郷土関係テープ	現代っ子と虫歯予防
その他	現代の科学——新薬の周辺
	ボケはどこまで治せるか
	心臓外科最先端 脳死なき移植への道
	科学ドキュメント 鳴門架橋
	その他

# 全国共同利用図書(大型資料)一覧

(昭和59年度～昭和60年度)

この資料は、全国共同利用を目的として文部省から購入費の配分を受け各国立大学で購入したものです。

利用希望者は、運用係まで申し出てください。

大学名	資料名
北海道	ベルンシュタイン・コレクション
北海道教育	労働省資料 労働運動史 昭20-52
東北	米国連邦議会・委員会刊行諸報告書・文書(1789-1903)
	19世紀英国下院議会文書 1801-1900
山形	近代中国史料叢刊正編
岩手	英国判例集 1220~1865
千葉	イギリス議会制定法集及び関係資料集
図書館情報	印刷・製本・出版関係コレクション
	百万塔及び自心印陀羅尼
筑波	フンボルト「新大陸の赤道地方への旅行記」
東京	17-20世紀フランスの教育学
	国策研究会文書
東京学芸	双六コレクション
東京芸術	音楽学位論文集
	ルネッサンス寓意図像稀観本コレクション
	交響曲(1720-1820)
東京医科歯科	アメリカ独立革命に関する発行されたパンフレット
東京学芸	欧米障害児教育基本文献集成
横浜国立	ヨーロッパの大縮尺地形図集成
新潟	西洋古典叢書 全997巻
上越教育	心理学研究
金沢	国連条約集
静岡	日刊紙 Le Monde 1944-1983
名古屋	英国近世初期書籍集成
岐阜	大東急記念文庫・古写・古版物語文庫
京都	20世紀初頭英国下院議会文書集
	ゴールドスミス・クレス図書館所蔵経済学基本文献集成
京都教育	師範学校史・各教育史和文コレクション
	鍵盤楽器研究学位論文集
	師範学校史・各教育史和文コレクション
三重	連歌俳諧書集成

大学名	資料名
奈良女子	食品・栄養学に関する文献基本集成リスト
大阪	ロシア語定期刊行物コレクション
大阪外語	アラブ、イスラム、アフリカ言語・文化コレクション
奈良教育	近代日本教育統計資料集
神戸	東寺百合文庫
神戸商船	英国版海図
兵庫教育	教育学コレクション
和歌山	イギリス産業革命期における都市衛生とその改善
島根	景印文淵閣四庫文庫
岡山	18-20世紀初頭フランス社会経済思想史コレクション
山口	ギリシャ・ラテン教父全集
高知	ソ連・東欧に関する経済・法律資料集
愛媛	商業関係統計表・工業統計表総覧
福岡教育	教育行政学・教育組織論研究論文集
九州	ラテン金石碑文大成 ラテン文書シリーズ
	両世界評論 Revue des Deux Mondes
長崎	ドイツ教育文献コレクション
	1750-1870
鹿児島	海洋社会科学学位論文コレクション
琉球	中国方志及書 第三期
	ハワイタイムス

## 府県統計書集成

— 明治・大正・昭和(戦前) —

昭和59年度に本学附属図書館が購入した資料で、47都道府県が戦前までに刊行した「府県統計書」の全てをマイクロフィルム(1,140リール)に収めたものです。

詳細については、「館報」No.32 1985に掲載していますので御覧ください。

## 昭和60年度 図書館統計

(昭和61年3月31日現在)

蔵書数	図 書			雑 誌		
	和 書	洋 書	計	和 書	洋 書	計
本 館	265,876(冊)	98,238(冊)	364,114(冊)	5,122(種)	2,129(種)	7,251(種)
蔵本分館	73,016	70,190	143,206	2,425	2,554	4,979
計	338,892	168,428	507,320	7,547	4,683	12,230

年間受入数	図 書			雑 誌		
	和 書	洋 書	計	和 書	洋 書	計
本 館	6,926(冊)	3,248(冊)	10,174(冊)	2,954(冊)	1,337(冊)	4,291(冊)
蔵本分館	1,403	2,225	3,628	833	816	1,649
計	8,329	5,473	13,802	3,787	2,153	5,940

		本 館	蔵本分館	計
利 用 人 員	教職員	7,144(人)	36,234(人)	43,378(人)
	学 生	165,938	103,646	269,584
	その他	365	561	926
	計	173,447	140,441	313,888

		本 館	蔵本分館	計
貸 出 冊 数	教職員	15,305(冊)	27,337(冊)	42,642(冊)
	学 生	37,177	26,804	63,981
	その他	—	—	—
	計	52,482	54,141	106,623

		本 館	蔵本分館	計
視 聴 覚	教職員	51(人)	84(人)	135(人)
	学 生	1,771	140	1,911
	その他	7	0	7
	計	1,829	224	2,053



		本 館		蔵 本 分 館		計	
		件 数	枚 数	件 数	枚 数	件 数	枚 数
文 献 複 写	学 内	855	73,187	13,354	115,782	14,209	188,969
	学 外						
	大学図書館	1,561	11,204	3,091	18,510	4,652	29,714
	その他	59	770	228	1,482	287	2,252
	計	2,475	85,161	16,673	135,774	19,148	220,935

		本 館		蔵 本 分 館		計	
		人 数	件 数	人 数	件 数	人 数	件 数
相 互 利 用	教 職 員	638	1,608	1,111	2,048	1,749	3,656
	学 生	75	212	263	493	338	705
	そ の 他	787	1,329	2,061	3,635	2,848	4,964
	計	1,500	3,149	3,435	6,176	4,935	9,325

		本 館		蔵 本 分 館		計	
		人 数	件 数	人 数	件 数	人 数	件 数
参 考 調 査	教 職 員	521	617	1,570	2,103	2,091	2,720
	学 生	764	860	751	893	1,515	1,753
	そ の 他	132	212	2,160	3,752	2,292	3,964
	計	1,417	1,689	4,481	6,748	5,898	8,437

		本 館		蔵 本 分 館		計	
		人 数	件 数	人 数	件 数	人 数	件 数
情 報 検 索	人 数	68		127		195	
	件 数		171		333		504

### 【附属図書館運営委員会委員名簿】

(昭和61.5.1 現在)

所 属	氏 名	任 期	所 属	氏 名	任 期
図 書 館 長	川 田 十 三 夫	60.8.1~62.7.31	歯 学 部 教 授	桂 茂	61.4.1~63.3.31
蔵 本 分 館 長	塚 谷 博 昭	61.4.1~63.3.31	薬 学 部 教 授	寺 田 弘	61.3.1~63.2.29
総 合 科 学 部 教 授	谷 口 春 雄	61.5.1~63.2.29	薬 学 部 助 教 授	洪 谷 雅 之	61.4.1~63.3.31
総 合 科 学 部 教 授	三 木 正 幸	61.5.1~63.3.31	工 学 部 教 授	鈴 木 茂 行	61.3.1~63.2.29
医 学 部 教 授	宮 本 博 司	61.4.1~63.3.31	工 学 部 教 授	森 吉 孝	61.4.1~63.3.31
医 学 部 教 授	井 形 高 明	61.4.1~63.3.31	教 養 部 教 授	戸 田 宏 文	61.3.1~63.2.29
歯 学 部 教 授	佐 藤 光 信	61.4.1~63.3.31	教 養 部 教 授	林 喜 代 美	61.4.1~63.3.31

## 併任を終えて

村田 康彦

肌寒く雨ばかり。これが1年前の東京での第一印象でした。1985年4月1日より1年間、東京大学文献情報センターで労働するために上京した日は今にも泣き出しそうな曇り空で、行く末不安な心境を表わしているかのような空もようでした。

この東京大学文献情報センターというのは、国が推し進めている学術情報システムの中核となる機関で、一口でいえば、何という資料がどこにどれだけ所蔵されているかという情報を全国の大学図書館を中心とする機関から収集し、編集、加工して提供するという役割を担っています。学術雑誌総合目録編集やオンライン目録システム（センターと大学図書館とをオンラインで結び、各大学図書館が端末から目録情報を入力し、センターがこれを編集して総合目録データベースを構築していくというシステム。すでに全国の10数機関が接続済）はセンターの事業の大きな柱となっています。この事業を推進する上で各大学図書館等が学術情報システムとセンターの業務内容を理解するために、毎年、各地から併任という形でセンターに人員（主として現場の図書館員）が派遣され、センターの職員の指導助言を受けながら実際の業務に従事するという制度があります。

この併任の「出稼ぎ組」（センターでは、「タスクフォース」と呼ばれていましたが、結局最後まで何の意味かわかりませんでした）は、昨年度全部で12名（うち女性3名）、その大半は20歳台後半から30歳台前半の「これからの図書館を背負って立つ（であろう）人たち」でした。期間は半年から1年。さすがに選ばれて派遣されてきた人だけあって、経験が浅いにもかかわらず、図書館のこと、あるいは業務機械化のことに造詣の深い人が多く、

「東京に住める」というだけで何も知らないくせに喜んで話に乗った自分と比べ、ずいぶんレベルの差を感じたものです。

センターでの仕事は、昨年度は学術雑誌総合目録（学総目）関係と、オンライン目録システム関係に大きく分けられました。まず10月までの半年間は、学総目欧文編全国調査のための各種資料の作成、発送が主たる業務でした。とくに9月はもっばらリストの打ち出しと発送準備のため生キズの絶えない日々を送りました。後半はオンライン目録システム関係の作業中心となり、その中でも端末操作をはじめとするマニュアル作成に最も時間を費しました。11月末から本格的にとりかかり、1月から3月まではほぼこの仕事にかかりきりで、ようやく3月の末日に印刷用の原稿が完成しました。まもなく日の目を見ることと思いますが、どんなできばえか興味もたれます。

結局、時間に追われ全体の動きと自分の位置をしっかりと把握できないまま時間が過ぎ去ってしまいました。最後の日は一年前の同じ日とはちがって、おだやかな日ざしあふれる晴天でした。空も一年の労をねぎらってくれたかと思わず勝手な解釈をしてしまいました。この一年の間にセンターの職員の人たちや併任組の人たちから学んだり教えられたりしたこと、それは何ものにも換えがたい貴重な体験でした。はっきりとした形になって見えるかどうかはともかく、今後必ずどこかでこの経験が生きてくるのではないかという気がしてなりません。

併任を終えて2か月余り。いまだに、何か重大なミスが発覚して電話がくるのではないかと内心ビクビクしている毎日です。併任中にお世話になった全ての人、とりわけセンターの目録情報掛を中心とする職員の方々と、席をあけていた間もいろいろと面倒をみていただいた図書館の方々に心からのお礼の気持

ちをあらわしたいと思います。

なお、東京大学文献情報センターは、1986年4月5日付で東京大学から独立し、学術情報センターとして新しく出発したことを最後に申し添えておきます。

(附属図書館運用係)

---

## 第34回 中国四国地区大学図書館協議会

### 総会を徳島大学が当番で開催

昭和61年4月17・18日の両日、11年ぶりに徳島で開催した。会場を徳島東急インとして協議会加盟の国公私立40大学のうち36館、69名の図書館長および事務(部・課)長の出席を得た。

本年度は特に協議会の幹事館および監査館を改選する年にあたり、全体会議でのこれら協議会の他に館長会議、事務(部・課)長会議、国立大学部会、公立大学部会、私立大学部会とわかれた会議をもち、それぞれの協議事項について連日精力的な協議が行われた。

なお、前掲の幹事館・監査館改選の結果は幹事館広島大学、監査館香川大学が再選され、総括の全体会議では、次回当番館を山口大学にお願いすることについての確認をして閉会した。

---

## 会 議

### 附属図書館運営委員会

(昭和59年度)

○第9回 昭和60年12月9日(月)(於：本館)  
議 題

1. 附属図書館長選考規程の一部改正について
2. 附属図書館分館長選考規則の一部改正について

○第10回 昭和61年2月17日(月)(於：蔵本分館)  
議 題

1. 分館長候補者の選出について
2. 昭和60年度学生用図書購入費(第2次分)配分(案)について
3. 昭和60年度外国雑誌購入費配分(案)について
4. 昭和60年度予算節約額について(昭和61年度)

○第1回 昭和61年4月21日(月)(於：本館)  
議 題

1. 附属図書館の本年度の運営方針について
2. 昭和62年度概算要求事項等について
3. 昭和61年度事業計画及び将来計画について

---

## 人 事 異 動

〔退職〕

酒司玲子 運 用 係 61.3.31

〔昇任〕

元山光代 蔵本分館運用係長 61.4.1  
(前 蔵本分館受入係)

坂東一博 施設部企画課工事経 61.4.1  
理係工事経理主任  
(前 総務係)

〔配置換〕

安喜 崇 総 務 係 61.4.1  
(前 経理部給与経理係)

〔転任〕

柳田一彦 蔵本分館受入係 61.4.1  
(前 阿南工業高等専門学校庶務課)

〔出向〕

三井忠臣 鳴門教育大学 61.4.1  
(教務部図書課閲覧係長に就任)  
(前 蔵本分館運用係長)

〔勤務換〕

吉田敬治 蔵本分館受入係 61.4.1  
(前 蔵本分館運用係)

# 夏季休業期間中の利用について（お知らせ）

附属図書館では、学生夏季休業期間中（7月11日（金）～9月10日（水））次のとおり取扱いをします。

## ○本館

### 1. 開館時間

月曜日から金曜日まで……

午前9時から午後5時まで

土曜日…午前9時から午後0時30分まで

### 2. 貸出期限の延長

7月2日（水）から8月30日（土）までの学生の貸出については、貸出期限を9月11日（水）まで延長します。

### 3. 学外図書館の利用

帰省等のため、他の大学図書館利用希望者は、7月5日（土）までに運用係まで申し出てください。紹介状を発行します。

## ○蔵本分館

### 1. 貸出期限の延長

夏季休業期間中でも特別な貸出期限の延長は行いません。ただし、現行の貸出期限を延長すれば、下記の期間利用できます。

- |              |       |          |
|--------------|-------|----------|
| (1) 図書       | 最長期間  | 19日間     |
| (2) 雑誌       | "     | 9日間      |
| (3) " (学部学生) | "     | 3日間      |
| (4) 最新着雑誌    | については | 延長できません。 |

なお、帰省等で期限日になった場合でもただちに返納をお願いします。

もし、期限超過になれば延滞日数だけ貸出ができなくなりますので充分注意してください。

### 2. 開館時間については本館と同じ。

## 目

嵯康の鍛冶趣味……………	1
本学教官著作寄贈図書……………	3
ヒューストン近郊での“できごと”……………	4
ビデオで学習を……………	6
全国共同利用図書(大型資料)一覧……………	7
昭和60年度図書館統計……………	8
附属図書館運営委員会委員名簿……………	9

## 次

併任を終えて……………	10
第34回中国四国地区大学図書館協議会 総会を徳島大学が当番で開催……………	11
会議……………	11
人事異動……………	11
夏季休業期間中の利用について(お知らせ)	12

編集：発行

徳島大学附属図書館

(〒770)

徳島市南常三島町2丁目1番地 徳島(0886)23-2310 内線(6111)